

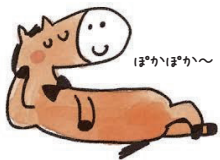
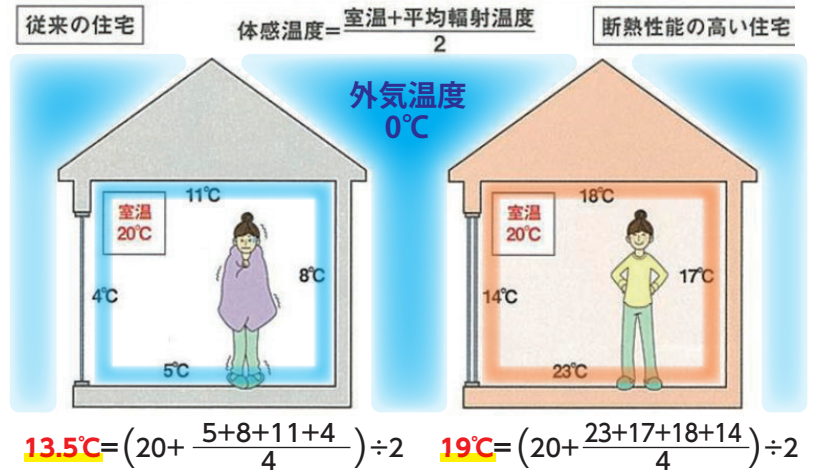
断熱性能の違いによる室内での体感温度の違いとシミュレーション

同じ室内温度でも異なる体感温度

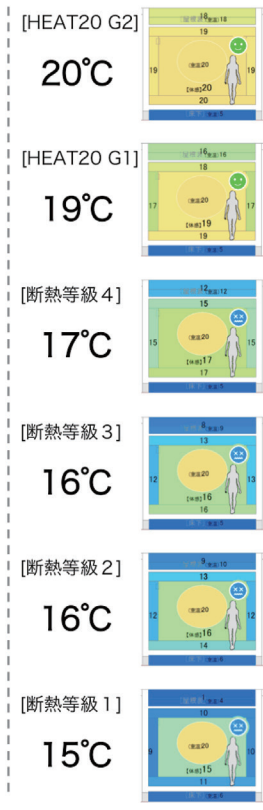
右の図は断熱が不十分な家と高気密高断熱の家、それぞれの家の「体感温度」を示したものです。室内の体感温度は(室温+平均輻射温度)÷2でおよそ算出されます。断熱性能が不十分な家は外気の温度を室内に伝えるため、冬に暖房の設定温度を20℃にしても、実際の体感温度は13.5℃にしかなりません。これでは光熱費がかさんでしまう上に、冷暖房機器のない部屋とはおおきな温度差が生じてしまいます。

※平均輻射温度とは外気に面した壁などの温度を平均して人体が感じる温熱体感指標のこと。

■寒がりの理由は体感温度！



0.6 ヘスタホーム  
 ・ZEH基準  
 ・一次エネルギー消費量6  
 ・断熱等級5  
 BELS★★★★★



断熱性能の基準は、国が定めた基準と、有識者が集まって決めたものがあります。断熱等級 1 ~ 4 が国の定めたもので、HEAT20という有識者が集まって作った団体が提示した基準が、HEAT20のG1、G2というグレードです。これらの基準値のとき、体感温度がどうなるか示します。上の図は、一年で一番寒かった日の翌日の朝、寝ている間は暖房を切って、起きる1時間前にエアコンで暖房して、起床した時の室温と壁の温度、そのときの体感温度をシミュレーションしています。

高気密高断熱の家は省エネで快適